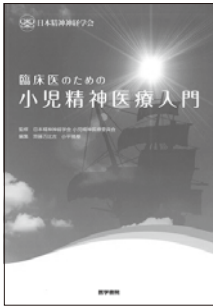


■ 書 評



臨床医のための 小児精神医療入門

日本精神神経学会
小児精神医療委員会 監修
齊藤万比古, 小平雅基 編集
医学書院
2014年5月 240頁
本体価格 3,600円+税

本書は、児童青年精神医学とその臨床領域である子どもの心の診療（小児精神医療）の基礎的情報と専門性を獲得するための道筋を示した入門書である。

監修は、本学会の小児精神医療委員会で、編集は、同委員会委員長の齊藤万比古先生ならびに委員の小平雅基先生である。同委員会は、本学会専門医取得準備中の精神科医に小児精神医療に関する整理された情報を提供し、この分野での研修目標を明確にすることを目的に、2011年度に本学会の教育に関する委員会に設置された児童思春期精神科部会（後に小児精神医療作業部会と改称）が、2013年9月に独立した委員会として再編されたものである。したがって、同委員会は、本書の刊行によって、主要なミッションの1つを遂行したといえる。

構成は、総論と各論の2部に大きく分けられる。総論の構成は、以下の5章である：A 子どもの精神発達・B 子どもの神経発達・C 早期幼児期の精神発達・D 母子関係の精神保健・E 児童青年精神科臨床におけるエビデンスの使い方。各論の構成は、以下の7章であり、各章は複数の項目より構成される：A 子どもの心の診療にみられる各病態・B 子どもの心の診療特有の問題・C 諸検査・D ケース・フォーミュレーション・E 治療介入技法・F 今後期待される治療介入技法・G 病院以外での子どもの心の診療。

総論の各章および各論の項目は、共通のフォーマットで編集されており、要約・理解度自己点検のためのチェックリスト・内容の理解を支援する図表などを示した自由ノート・学習や研修の達成目標（初級・中級・上級の3段階）・引用文献および推薦図書が記載

されている。さらに、各論A章の項目中の各病態の基本的治療技法では、治療技法名に推奨度を4段階（A+, A-, B, C）にわけて示してある。このように本書の内容は包括的で、わが国の小児精神医療において現在要求される項目が網羅的に解説されており、かつ視覚的にも理解しやすい。したがって、本書のタイトルには「臨床医のための」とあるが、子どもの心の診療に関する専門性の獲得を目的とする精神科医や児童精神科医、あるいは小児科医だけでなく、子どもの精神保健、福祉、教育などの分野に関わる様々な職種の読者にとって、本書は有用であろう。

執筆者のほとんどは、編者らが、わが国を代表する児童青年期病棟の1つを有する国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科に所属していた頃に、厚生労働省から企画・実施を受託された「厚生労働省こころの健康づくり対策事業思春期精神保健研修」の中の医療従事者専門研修の担当講師である。執筆者は、わが国の各領域の第一線で活躍するエキスパートで、その領域においては、この人しかいないといえるような人も多い。

その一方で、このような網羅的な入門書ではやむを得ないところもあるが、各論の少数の項目中に、物足りなさを感じるものもある。とくに、各論A章の自閉症スペクトラム障害（広汎性発達障害）や各論E章の薬物療法の項目は、小児精神医療の領域において最も重要な項目の1つであるが、ページ数や図表が少なく、精神科医であれば常識といえるような内容に終始しており具体性にかけ、文献も少数の和文文献しか紹介されていない。自閉症スペクトラムにしても、薬物療法にしても、児童青年精神医学領域で、今後活発な研究成果の蓄積が期待される場所である。本書を監修した本学会の小児精神医療委員会は、今後毎年日本各地での研修会の実施を計画している。最新の知見に関しては、これらの研修において紹介されるものと考えられ、それと同時に本書を一定期間毎に定期的に改訂していくことで、わが国の小児精神医療の発展に対して、本書が大きな貢献をもたらすことが期待される。

（高橋秀俊）